

都島だより

発行責任者

信原 利行

〒175-0092
東京都板橋区赤塚5-31-9
TEL 03-5383-2428一般社団法人浪速工業会
都島クラブ会報

2018年(平成30年)1月 第56号

事務局 馬江 治喜

〒234-0056

横浜市港南区野庭町696-6

TEL 045-841-8885

E-mail har1942umae@iris.ocn.ne.jp

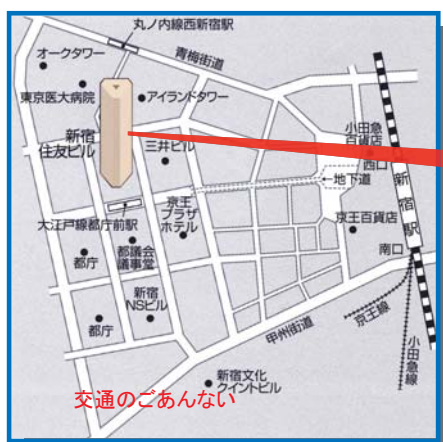
題字デザイン A28(故)岡田 宏三

NEWS56号

一般社団法人浪速工業会・都島クラブ 現在会員数 ◆ 合計478名

◆ M・機械96名、ME・機械電気25名 ◆ A・建築80名 ◆ E・電気・電子工学161名 ◆ C・土木・都市工学38名 ◆ CI・工業化学・理数55名 ◆ L・普通12名 ◆ 工専11名

一般社団法人浪速工業会・都島クラブ総会

新宿住友ビル47階
東京住友クラブ

にて開催します！

2018年5月19日(土)

平成29年度
総会のご案内

一般社団法人 浪速工業会 都島クラブの今年度の総会を左記の通り開催いたします。ご多忙中のこととお察し致しますが、万障お繰り合わせの上ぜひご出席ください。

●日時 平成30年5月19日(土) 13時～16時

●場所 東京住友クラブ

新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル47階

TEL 03-3344-6285

●親睦会費 7,000円(女性会員は4,000円)

新規卒業の会員は無料

※同封の返信はがきに出欠をご記入の上、3月31日までに必ず投函して下さい。

特別講演会開催

南極ってどんなところ？

日本南極地域観測隊に参加して



講師

第55次日本南極地域観測隊
E57卒 久保田 弘氏

南極地域観測隊として参加されたE57久保田氏が今回の総会に合わせて大阪よりお越しいただき南極に関する講演をしていただくことが決定しました。

久保田氏のプロフィール等の詳細は2面に掲載しています。

昨年度総会・親睦会の様子

平成28年度
(一般社団法人)浪速工業会・都島クラブ総会同期・先輩・後輩お誘いあわせの上
多数ご参加ください

昨年度の総会ご出席者

来賓 嶋田 克幸 理事長、大内 維人 学校長

機械科 M26上田英雄 M34石川芳夫 M36西村 功
6名 M38仲西 正 M42前田範行 M42山口忠雄

機械電気科 ME40松本良治 MEH16岡崎 彰
2名

建築科 A28酒井 保 A37森 芳信 A44水守恵子 A44森本良平
8名 A48田淵成明 A57中谷卓司 A57信原利行 A59尾川浩之

電気科 E29岩崎亮平 E29小林孝榮 E35田中 浩 E35芳仲 宏
10名 E36赤尾仁史 E36石垣英明 E36馬江治喜 E36笹治博司
E36竹村繁幸 E41森兼良虎

土木科 C26佐藤裕能
1名

工業化学科 CI32松井駒治 CI37五十嵐三喜雄 CI38岩井 誠
5名 CI38宮田秀明 CI40菅家亘通

参加者32名+来賓2名 合計34名

総会特別講演会のご案内

事務局より

2018. 5. 19 都島クラブ総会
特別講演会開催
南極ってどんなところ？
日本南極地域観測隊に参加して



第55次日本南極地域観測隊
E57卒 久保田 弘氏

今回都島クラブ総会に於きまして、左記の特別講演会を予定しています。南極地域観測隊として南極大陸を体験された久保田氏が沢山の写真・動画等を用いて判りやすく説明して下さい予定です。是非とも多くの皆様のご参加をお待ちしています。



海水上を進む小型雪上車



越冬隊集合写真



ユーモラスなアデリーペンギン



砕氷艦しらせ

★久保田 弘氏 略歴

- 昭和39年 大阪市住之江区出身
- 第55次日本南極地域観測隊越冬通信担当として、平成25年11月から平成27年3月までの約1年4か月間、南極・昭和基地に赴任。
- 昭和基地では、主として無線局の運用、無線設備の保守に従事。
- 現在、総務省 近畿総合通信局に勤務。

【学歴】

昭和57年3月 大阪市立都島工業高等学校
電気科卒業。在学中は、アマチュア無線同好会に所属

昭和57年4月 大阪工業大学 工学部電子工学科入学

昭和61年3月 大阪工業大学 工学部電子工学科卒業

【職歴】

昭和57年4月 郵政省 近畿電波監理局に採用
昭和61年4月 郵政省 近畿電気通信監理局に勤務

平成13年1月 総務省 近畿総合通信局に勤務

平成24年8月 総務省 情報流通行政局に併任

平成25年7月 総務省 関東総合通信局に転任
併任解除。日本出国まで、国立極地研究所において、南極地域観測に向けた訓練、準備作業等に従事

平成25年9月 文部科学大臣から第55次南極地域観測隊員を委嘱される。

平成25年11月 日本出国、オーストラリア経由で南極へ

平成25年12月 南極・昭和基地到着

平成27年2月 南極・昭和基地出発、オーストラリア経由で日本へ

平成27年3月 日本帰国

平成27年4月 総務省 近畿総合通信局に転任
現在に至る。

皆様のご参加をお願いします



MMS 03



第3回 MMS
開催日：平成29年9月22日
題名：プレゼンテーション業務
41年の作品とよもやま話
講師：A37 森 芳信氏

「プレゼンテーション業務 41年の作品とよもやま話」 を聴講して

M36 西村 功

第3回目のMMS講座が首題のテーマでA37年森芳信様を講師として行われました。森さんが入社以来作成されたパスの中から約40枚を選択され、1枚1枚の思い出についてお話を伺いました。これらの作品はどれをとっても緻密な絵で、よくどこまで描かれたものと感じすると共に、このパスを制作することを生涯の仕事として選ばれた数々の賞を取られたことに同じ学校を卒業したものと非常に誇りに感じました。さて、パスとは設計者との対話により設計意図や表現方法等の詳細な打ち合わせに基づき、それを如何に忠実に、かつ美しく表現するかという建築物についての技術的特徴を理解する技量と、芸術性を高めるアートな表現力の両面が要求される高度な技術であることが良くわかりました。パスは建築設計競技の場合、応募図書の一部として重要な役割を担い設計の受注の有力な武器となる場合と、設計が完了した建築物を正確にかつ美しく表現することにより、お客様の記念品となる重要なものであることが良く判りました。作品にはそれぞれ森さんの思いが込められており、当日はその一端を発表しても良かったのですが、ここではその中から特

に森さんの思い出深い作品を4例紹介させて頂きます。本稿は森さんのご協力を得て作成しております。



◇設計者との対話から 生まれるパス◇

A37 森 芳信

建築パスは、基本構想・基本設計・実施設計の各段階で必要に応じ描かれます。何れの段階でも、設計図が基となりますが、設計者が何を意図し何を望んでいるかを的確に掴み、又それらに対して提案をする等設計者との対話が大変重要な要素となります。これらは偏にクライアントへ最良のプレゼンテーションを行う為です。新聞の折り込み広告で見かけるマンシヨンの完成予想図も建築パスですが、描く目的が異なります。

中野サンプラザ 断面パス (制作：1970年)



数多くの機能を抱合する大規模複合建築を1枚の絵で説明できる方法を求められ、断面パスを提案しました。従来この様なパスでのプレゼンテーションの例が、あまり無く、このパス以降建築雑誌等で断面パスがよく見掛けられる様になり、断面パスでのプレゼンテーションの魁となったと云えます。

2面より

日本プレスセンタービル

(制作…1976年)



パースの寿命は所詮、建築物が竣工するまでと言うのが通常で、画家の描く絵画との大きな違いです。日本プレスセンタービルのホールで、日建設計の講演・展示会を開

催させて頂く為に事前の打ち合わせに伺った折、通された会議室に何と20年余り前に自らが描いたパースが飾られていました。言葉に表せない感激をおぼえ、クライアントが長年に渡りパースを大切に扱って頂けた事に感謝をし、身の引き締まる思いがしました。

文京シビックセンター

(制作…1988年)



指名設計競技の応募時に制作し、このプロジェクトの設計業務の受注に成功しました。最上階照明の点灯している円弧状の部分、区議会会議場です。深夜に及ぶ区議会

との設定で敢えて夜景パースとした事がインパクト有ったのではないかと考えています。

福岡タワー

(制作…1988年)



1889年アジア太平洋博覧会「よかとピア」に向けて計画されたタワーです。竣工後、博多市街からどの様に見えるか検証して欲しいとの要請を受け、地図上でベストアングルを検討した上で現地調査に。大濠公園より撮影の写真に作図、カラーリング仕上げをしました。

【第4回都島クラブ・技術を語るタベ】開催のご案内

MMS実行委員会

MMS 04

Miyakojima Club Meeting Salon



第4回MMSを左記の通り開催致します。先輩や後輩が技術を題材としたこれまでの経験、伝承したいことを語り、後輩においては各分野での現状報告や最新の状況を先輩に伝えることを目的とし会員間の親睦を図ります。ミーティング終了後は付近での懇親会を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

講師 MEH16 岡崎 彰氏
内容 『AIの展望』
開催日 3月2日(金) 18時30分〜20時30分
開催場所 六甲クラブ・帝劇ビルB2

会費 2000円(懇親会費別)

申込締切 2月20日(水)

申込方法 事務局・馬江まで科、卒年、氏名を電話、FAX又はEメールにて御申込み下さい。

TEL・FAX 045-841-8885

Eメール har1942uma@iris.ocn.ne.jp

次回MMSは平成卒業の岡崎氏が最新のソフトウェア開発についてプレゼンテーションをして下さいます。

★岡崎 彰氏 略歴

平成13年4月 大阪市立都島工業高等学校 機械電気科 入学

平成16年3月 同 卒業

平成16年4月 大阪府立工業高等学校 電子情報工学科※1 編入学

平成18年3月 同 卒業

平成18年4月 大阪電気通信大学 総合情報学部※2 情報工学科 編入学

平成20年3月 同 卒業

平成20年4月 同大学 大学院 工学研究科 情報工学専攻 博士前期課程 入学

平成22年3月 同 修了

平成22年4月 メディアドライブ株式会社※3 入社 現在に至る

※1 現 大阪府立大学工業高等学校 総合工学システム学科 電子情報コース

※2 現 情報通信工学部

※3 現 株式会社エヌジェーケー

創立一〇周年記念 東西合同懇親会旅行に参加して

E36 赤尾 仁史

七月三〇日、三二日と館山寺温泉へ行った。関西組はバスにてホテルへ、関東組はそれぞれ直接ホテルへ。小生は新幹線で浜松へ、駅にはヨシキ(X Japan)の筐体を透明アクリルで造ったピアノが飾ってあって、ちいちゃい子が曲を弾いていた。小生もポロンポロンと

触ってみた。駅から無料バスで(関東組はほとんど一緒)館山寺温泉へ。着くと関西組も到着して、部屋へ入り、さつと温泉につかり宴会場へ。おいしい料理と酒、懐かしい顔。理事長や、近江さん(元科学技術庁長官)を始め何人かのおしゃべりがあり、小生もしゃべらされたが、なにをしゃべったか覚えていない。何人かのカラオケがあり、お開きとなった。一部屋を集合場所として、酒とつまみを用意、大勢が集まり再び宴会。零時を過ぎても終わらなかった。終りの方は近江さんの独演会、イヤーお元気である。あのバイリティーはどこから?

翌日は温泉につかり朝食後、浜名湖遊覧船(三〇分コース)、天気も良く観光日和であった。ここで関西組と別れ、関東組は路線バスを利用して、「新居関所跡」を見学。今切の関所とも言い全国唯一、通行証文や手形が残されている国の特別史跡である。その後、大河ドラマ直虎所縁の龍潭寺へ。井伊家の菩提寺であり、うぐいす張りの廊下や左甚五郎の龍の彫刻、小堀円周作の庭を見学。バスで浜松へ、浜松駅で鰻や鱧を食べ、酒を飲み解散。いい旅となった。お土産にうなぎ弁当を買って帰ったが、一歳半の孫がパクパクと半分をたいらげた。旨い国産は分かんらしい。



サゴロイアルホテル前にて



浜名湖遊覧船にて

水郷佐原の散策行

青 覚 会
見学会
報告

E 35 芳仲 宏



懇親会ランチの麻生屋さんの前で

平成29年10月14日(土) 関東青覚会主催の「水郷佐原 古い町並みが残る小野川沿いの散策」に参加した。朝、8時過ぎに自宅を

出て、横須賀線逗子駅から成田線佐原駅まで、3時間弱、電車で揺られていました。関東青覚会からのガイドマップには、「小江戸の風情を感じる水郷佐原」、「古い町並みが残る小野川沿いの散策」と記載されていたが、当日は朝から冷たい雨の中を、ただひたすら、「ウナギランチ」を楽しみに、びしょ濡れの散策で、帰宅したのは夜9時過ぎとなり、結局JRに6時間余揺られた1日でした。事前に、佐原迄の時間をしっかりと把握するべきでした。本当は、成田エクスプレスに乗るべきだったのかもしれませんが。

しかし、難行苦行の1日も、ふりかえれば、非日常の1日を過ごせて、良かったです。先日、新聞を整理していたら、10月18日付、日経紙の夕刊に、「忠敬ゆかりの地 自分に重ねて」と題する記事の中に、演歌歌手の原田悠里が佐原を舞台にした「佐原雨情」を発表した記事が出ていました。まさしく、10月14日(土)は、雨の中をうろついた「佐原雨情」の日でした。記事の内容は、日本地図を作るため、伊能忠敬が50歳を過ぎてから全国測量の旅に出て、「この一歩から」と刻まれた石碑と、演歌歌

手の原田悠里が、おのれの歌手生活を「この一歩から」と気持ちを重ね合わせたとの趣旨でした。そう言えば、町の中に、「佐原雨情」・「こてやんの歌」と題するポスターが張られていて、この記事のことだったのかと納得しました。なお、「この一歩から」の石碑は、伊能忠敬旧邸にあるのですが、「ウナギランチ」の時間が迫っていたので、パスしました。今、手元に、伊能忠敬記念館の入館券と雨に濡れたしわくちゃのガイドマップが残っています。佐原の町自体は、江戸時代から利根川の水運の中継地として栄え、町屋、土蔵、レンガの町並み残っていて、国の「重要伝統的建造物群保存地区」なのですが、由緒ある建物をじっくりと見学することなく、雨に降られて、散策というよりは、ただただひたすら歩いて、トイレを見つけてはホットしただけでした。

「ウナギランチ」の後、佐原駅への帰途は、14台の山車が集まるイベントもあったのですが、山車の主役の人形は雨を避けるため、ビニールシートで覆われて、イベントは見ませんでした。ただ、人混みの中を雨に降られながら、帰りの電車へと急ぎました。しかし、帰りの電車に乗り遅れて、次の電車に乗り遅れないようにと、駅の待合室で、じっと我慢のする羽目になりましたが、待合室の大型モニターで、大祭の様子が解説付きで放映されており、威勢のいいお姉様方の手舞い、山車の集結、「の字まわし」が写され時間の経つのもあっという間でした。待合室の大型モニターを見たお陰で、なんとなく本番の大祭を楽しんだ気になりました。

参加者 M 34 石川、M 36 西村、E 35 芳仲、E 35 田中、E 36 笹治、A 28 酒井、A 37 森、A 44 森本、A 57 信原(同伴1名)の計10名。

故・岡田宏三さんのお別れ会

E 35 芳仲 宏



運河越しのナイスアングル(笹治氏撮影)



うなぎランチの懇親会

平成29年10月28日(土)、東京デザインセンター ガレリアホールで行われた「故・岡田宏三さんのお別れ会」に出席しました。

今年(平成29年)の1月31日、夢の国へ旅立たれましたが、A 28の卒業生で、都島クラブの活動に多大の貢献・足跡を残されました。(詳細は割愛) 彼の個展も拝見しましたが、本当に、素晴らしい作品で、どこからあのようなユーモアをちよびり交えた感じがする作品群が創り出されるのだろうと思いました。やはり、彼の人間性の発露だと思っています。縁あって、お別れ会に参加しましたが、ご家族の言葉を借りれば、「夢見る夢男のまま」旅立たれたそうです。お別れ会には、彼の交遊録を表現する芸達者な方々が参加され、ピアノ演奏、独唱、弾き語り、独白等、一流のパフォーマーの連続で、ピアノ好きの岡田さんが、ひよっこりと、「遅くなって、スマンスマン」と、姿を見せるのではと思いました。会場の設定で目を引いたのが、彼の作品群がずらりと展示されており、その脇に、「断捨離を宜しく」との表示がありました。要は、参加者が欲しい品に、自分の名前を記した付箋を張り、最後に持ち帰っても良いとの趣旨の表示でした。これは、彼の作品の処分としたい出を兼ね備えた試みで、ある意味では、彼の

の作品を参加者の思い出として、持ち帰って下さいと言う、岡田さんの最後のプレゼントでした。また、参加者の挨拶も、湿っぽいものではなく、都島クラブ代表の信原氏も、「敬えて、先輩と呼ばせて下さい。」とさつくばらんな姿勢で、「仕事の進め方」を指導してもらった逸話を話されていました。都島の諸先輩も参加されており、奥様の苑子様(会に参加された方は、ソノコではなく、親しみを込めて、エンコ、エンコと呼ばれていた。)、「ご子息の純一様が意図された、「明るく楽しく送る」ことを狙いとした「お別れ会」は、大成功だったのではと思います。都島クラブ総会における演奏、都島クラブ活性化への取り組み、M ニュース記念冊子のデザイン、替え歌の名手、母校のテニスコート整備の逸話等々を記せば限りありません。今日は、台風がもたらす雨に加えて、本当に肌寒いです。岡田さんが手がけたパッケージデザインゆかりのナビスコのチップスター(本わさび)を嚙りながら、ウイスキーをチビチビ舐め舐め、パソコンを操作しながら、本稿をまとめています。少し、酔いが回って来たみたいです。最後に、素晴らしい岡田先輩のご冥福をお祈りして、パソコンの電源を切ります。合掌。

訃報

E18/12年卒 中山 忠晴氏 平成29年3月
M18/9年卒 永島 精一氏 不明
E38年卒 青木 隆 平成29年8月
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



岡田宏三氏偲ぶ会にて



岡田苑子さん挨拶

次号のMニュースは平成30年7月発行予定です。

広報担当 (A・L科) A37・森、A57・信原 編集後記: 寄稿して頂いた原稿を部分的に意図する内容が変化しない範囲で少々変更させて頂きました。何分ご了承ください。